

「真の平和」を求めて

金武町立金武小学校六年

安次富 倫

「日本は平和だなー。よその国ではそんなことが起こっているんだ。こわいな。」内戦やテロ事件の報道をみて、私はそんな風に感じています。外に出るのに、爆弾が飛んでくるかもしれない、誰かにおそわれるかも知れない……。そんな風におびえて外出することなど私にはないからです。日本に住んでいる人は皆、私と同じだと思います。だからこそ、テレビで目にする映像には、ぞっとしたり、ついで目をそむけたりするのです。それほど私には信じられないことなのです。

内戦やテロ以外にも、食糧不足に苦しむ人や環境の悪いところで住んでいる貧しい人々の映像を見ても苦しい気持ちになります。「私達には家があり、そこには水も食べ物も、お菓子だってある。でも、それさえもない人が世界にはたくさんいるんだよな。」そんなことを思い知らされ、自分のわがままを反省させてくれます。当然のように学校に行き、勉強したり遊んだりする。面倒だなと思いつつながら課題に向かい、そして、給食の時間には、嫌いな物は残したりする私。それがわがままだということに気づかされるのです。「私は幸せなのだ。恵まれた環境の中にいるのだ」そう思って日々の生活を送るようにしたいと私は考えました。

五月の連休に、私は家族と一緒に糸満市にある平和祈念公園に行きました。そして真つ先に平和の礎に向かい、そこでもくとうをしました。私の住む町、金武町では沖縄戦で五十人ほどの人が亡くなり、その中には私のひいおじいちゃんや親せきの人達がいたからです。礎にひいおじいちゃんの名前を見つけて、私も家族も悲しい気持ちになりました。会ったことのないひいおじいちゃんだけれど、戦

争で亡くなったことを思うと、つらく苦しい気持ちになりました。そして、心からやすらかにねおつてほしい、と思ったのです。

「日本で、沖縄で、二度と戦争が起らないように、私達は努力します。だから、そうなることを見守っててください。そして、安心して、やすらかにねおつてください。」そう思いながら手を合わせました。もちろん、日本だけではなく、世界中から戦争がなくなつてほしい、争いがなくなつてほしいと願っています。平和の礎を見たことは、世界中が平和へと変わっていきけるように、私には何ができるのか、考えるきっかけになりました。私の周りでは戦争は起きていません。内戦もありません。地らいにおびえたり、おそわれる恐怖を感じることもありません。でも、日々のニュースでは殺人や傷害、ぬすみなどの事件が報道されています。そして、学校ではいじめが起きることもあります。悪口を言ったり仲間はずれをしたり。私にも心あたりがあります。だから、「真の平和」とは言えないかもしれない、と思ったりします。戦争さえ起きていなければ平和、というのではなく、生きていく人々が安心して暮らしていることが平和だと思えます。何かにおびえたり、こわい思いや辛い思いをすることなく過ごせるのが「真の平和」だと私は思い直しています。たとえ自然災害や事故が起ったとしても、互いに助け合つて、協力し合つて、困難を乗り越えることができれば、それこそが「真の平和」と思うのです。それは、自分さえよければいいと言う考えを捨てて、だれかのために汗を流したり、真剣に悩んだり解決のために行動したりすることだと私は思っています。

「真の平和」をつくるために、私はだれかのために一生けん命活動します。私ができることをしっかりやって、手を差しのべられる人になります。それが、今わたしができること、すべきことだと気づきました。